

ウェブ検索による漢字表記のゆれに関する調査

——「卵焼き」と「玉子焼き」を中心に——

張 明

[キーワード：①漢字表記 ②ウェブ検索 ③アンケート調査 ④男女差 ⑤地域差]

1. はじめに

日本語を書き表す文字には、漢字、平仮名、片仮名など、多様な種類の表記方法がある。そのため、「朝顔・あさがお・アサガオ」や「秋刀魚・さんま・サンマ」などのように、表記のゆれがまれではない。しかし、用意される漢字表記は1つしかないのが普通であるが、「たまご」の漢字表記は「卵」が一般的に使われる一方で、もう1種の漢字表記である「玉子」も存在する。漢字と仮名のゆれと比べ、漢字表記同士のゆれはさほど多くない。

調理して、料理になったものは「玉子」「雲丹」で、生きている状態や、「生」のものは「卵」「海胆」だというように認識されるなど、生きている状態か、調理したものかによって、漢字表記が変わる現象は日本語にある。しかし、「たまご焼き」は料理名であり、調理したものであるにもかかわらず、「卵焼き」と「玉子焼き」の2種の漢字表記が一般に見受けられる。生きている状態か、調理したものか、という基準以外に、詳しく調査・検討する必要があるのではないと思われる。

本稿は、「卵焼き」と「玉子焼き」を中心に、ウェブ（ワールド・ワイド・ウェブの略称、すなわち英語の「World Wide Web」を指す。WWWはその略称。）をコーパスとして利用し、同じことばに2種の漢字表記があるものの使用実態を明らかにすることを目的とする。

2. アンケート調査による調査結果：塩田・山下（2013）

本稿のウェブ検索・調査と異なり、塩田・山下（2013）はアンケート調査という調査方法で、「唐揚げ・空揚げ」「卵焼き・玉子焼き」「醤油・正油」の漢字表記のゆれについて調査したものである。塩田・山下（2013）では、調査結果を述べるまえに、「たまご」ということばの背景について説明している。詳細は塩田・山下（2013）を参照されたいが、本稿は表1のようにまとめておきたい。ことばの背景を確認してから、塩田・山下

表1 「たまご」ということばの背景（塩田・山下 2013：48-49 参照）

項目	原典	記述
NHK 現行規定	『NHK 漢字表記辞典』	卵焼き
「玉子」という表記について	文化庁編（1981）	「玉子」は「当て字」 「玉子」は「ぎょくし」と音読みされ、「たまご」の意味はない。
	笹原（2010）	「玉子」は「語源（意識）と字訓・字義が対応しており本来的といえる。「卵」よりやや遅れ、中世末から近世初期にかけて現れた。
『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータ	丸山（2011）	現代の書きことばでの出現数としては、「卵」が約81%で、もっとも多い。
「卵」と「玉子」の使い分け	『新潮日本語漢字辞典』	「玉子」は食用にする鶏の卵の意に多く使われる。
ウェブでのアンケート調査	塩田（2007）（2008）	「生たまご」は「～卵」、「たまご焼き」は「玉子～」のように書き分けをするという意見が若い世代になるほど多くなってきた。
新聞各社の規定	『最新用字用語ブック [第6版]』『朝日新聞の用語の手引』『NIKKEI 用語の手引 2011 年版』『毎日新聞 用語集』	「たまご」の漢字表記は原則として「卵」であることを明記しつつ、「玉子丼」などの例外も示している。
消費者庁の規定	http://www.caa.go.jp/foods/pdf/syokuhin12.pdf	アレルギー物質を含む食品の一つである「卵」を原材料として表示する際に、「玉子」「タマゴ」「エッグ」などを「代替表記」として認めている。
地域による習慣	笹原（2008）	高知では「卵」と書くのが普通で「玉子」はほとんど使われない。

(2013) の調査結果を説明する。

表1 でまとめたことばの背景を確認したうえで、塩田・山下（2013）の調査結果を以下の4点にまとめる。

まず第一に、全体として、[卵焼き派] は33%、[玉子焼き派] は64%であり、[玉子焼き派] のほうが多い。

第二に、男女差について、男性には [玉子焼き派] が、女性には [卵焼き派] が相対的に多いという傾向がある。

第三に、年齢別について、特定の傾向は見られない。

最後に、地域別について、[玉子焼き派] が関西にやや多いが、それ以外は目立った特徴は表れていない。高知については、9人中4人が [卵焼き派]、5人が [玉子焼き派] で、表1 の最後にある笹原（2008）の記述は確認されなかった。

本稿は、WWW をコーパスとして利用し、上述の塩田・山下（2013）のアンケート調査と同じ結果が出るかを検証したい。なお、WWW を使い、「卵焼き」と「玉子焼き」の年齢差についての調査は、力不足で、有効な手段が思いつかないため、「卵焼き」と「玉子焼き」など、漢字表記のゆれについての年齢差の傾向がわからないという結論になる。

3. 調査結果

3.1 全体として

Yahoo! (<http://www.yahoo.co.jp>)¹⁾ を使い、「卵焼き"-玉子焼き"と「玉子焼き"-卵焼き"をそれぞれキーワードにして検索した。「卵焼き"-玉子焼き"の検索件数は6,160,000件、「玉子焼き"-卵焼き"の検索件数は1,660,000件である²⁾。すなわち、「卵焼き」の検索件数が多い。

Yahoo! では、「卵焼き派」が多く存在し、塩田・山下（2013）と異なる結果になった。

3.2 男女差について

本稿は萩野（2014）を参考に、ブログを使用し、男女差を見る。「さまざまな単語が男性に用いられるか女性に用いられるかを基準にして、個々の単語の「男女度」を測定しようとする。」（萩野 2014：149）方法である。

ブログの検索には Yahoo! の検索エンジン (<http://blogs.yahoo.co.jp>) を用い、ブログの中で、「卵焼き」「玉子焼き」と「あたし」「俺」「僕」が共起するものの件数を数えた。例えば、「卵焼き」でいえば、「あたし 卵焼き」「俺 卵焼き」「僕 卵焼き」の3回のブログ検索を行うことになる。また、「日付指定」をし、「2005年1月1日～2016年1月31日」で検索した。

しかし、「俺物語」という漫画や、「俺塩流」という店名など、自称詞として使われていない例がある。検索結果は、それぞれ先頭100例ずつを手作業で確認し、当該の語が正しく使われていることをチェックする。100例中、不適例を省いた割合を求め、全体の総数からおよその件数を割り出して計算する。結果をまとめると、表2のようになる。

萩野（2014）には、「あたし」が女性によって、「俺」と「僕」が男性によって使われることを前提として共起頻度を数えているのだが、この前提も、ごくわずかながら、当てはまらないことがある。男性が「あたし」を使ったり、女性が「俺」や「僕」を使うことがわずかながら現実にあるからである。しかし、大量の出現頻度を扱うならば、このようなわずかのゆがみは、大勢に大きな影響を与えるのではなく、無視してもかまわないと考えた。」（同：150）との言及がある。この点については、本稿も、萩野（2014）と同じ考えである。

表2の最終用例数からだけで、男女差を比較するのは不適切である。そのことについては、萩野（2014）においても、言及されている。それは、「あたし」と「俺」「僕」

表2 ブログにおける「卵焼き」「玉子焼き」と自称詞の共起頻度³⁾

	最初のヒント数	100例中の適切例	最終用例数
あたし 卵焼き	2,415	81	$2,415 \times (81/100) = 1,956.15$
俺 卵焼き	4,306	38	$4,306 \times (38/100) = 1,636.28$
僕 卵焼き	4,516	53	$4,516 \times (53/100) = 2,393.48$
あたし 玉子焼き	1,124	68	$1,124 \times (68/100) = 764.32$
俺 玉子焼き	2,495	74	$2,495 \times (74/100) = 1,846.3$
僕 玉子焼き	2,920	81	$2,920 \times (81/100) = 2,365.2$

を比べると、後者のほうが出現頻度が大きい。」(同：150)からである。

よって、本稿も荻野(2014)と同様に、交互平均法を使い、男女差を見る。「この手法は、クロス表の行と列の関係をもとにして、行相互の、および列相互の関係を一次元の数値で表す方法である。この手法によれば、「あたし」と「俺」「僕」の頻度の差を考慮することなく、クロス表の中の数値の偏りだけを基準にして行と列の関係を見ていくことができる。」(同：150)。相互平均法の計算法は荻野(2014：83)を参照されたいが、計算結果は、「卵焼き」(2.07)、「玉子焼き」(2.32)となる。

「値が小さいほうが女性的、大きいほうが男性的ということになる。」(荻野2014：150)を考えれば、「卵焼き」は女性が相対的に多く使い、「玉子焼き」は男性が相対的に多く使うことがいえる。これは、塩田・山下(2013)と同様の調査結果になる。

3.3 地域差について

地域差の調査にあたって、本稿は、食べログ(<http://tabelog.com/>)を使い、検証した⁴⁾。口コミ・お店の情報に「卵焼き」を含むレストランは全19,389件、「玉子焼き」を含むレストランは全23,039件である。食べログでは、[玉子焼き派]のほうがやや多い。

食べログは地域別に検索できるため、集計結果をまとめると、表3～表8のようになる。

表3から表8まででわかるように、「卵焼き」と「玉子焼き」の地域差は特に見られない。どの地域でも、比率の差はわずかである。関東地域は、[玉子焼き派]が多く、2.49%の差がある。それに対し、中部地域は、[卵焼き派]が多く、1.53%の差がある。

関西のほうが[玉子焼き派]がやや多いという、塩田・山下(2013)の結論については、表6からすると、1%も達していない差であり、ほぼ差がないといえる。

また、表1でも述べたが、笹原(2008)によると、高知県では、「卵」を使うのが一般的であり、「玉子」が使われていないらしい。塩田・山下(2013)でも、この現象を検証しているが、「9人中4人が[卵焼き派]、5人が[玉子焼き派]である」(同：49)とあり、笹原(2008)で指摘された現象を確認することができなかった。興味深い現象

表3 北海道・東北地域について

地域別	「卵焼き」	「玉子焼き」
青森県	109	88
岩手県	108	156
宮城県	334	317
秋田県	144	84
山形県	78	88
福島県	220	204
北海道	1,060	1,242
小計	2,053 (10.59%) ⁵⁾	2,179 (9.46%) ⁶⁾

表4 関東地域について

地域別	「卵焼き」	「玉子焼き」
茨城県	239	273
栃木県	203	203
群馬県	357	194
埼玉県	531	633
千葉県	588	738
東京都	5,474	7,157
神奈川県	1,221	1,610
小計	8,614 (44.42%)	10,808 (46.91%)

表5 中部地域について

地域別	「卵焼き」	「玉子焼き」
新潟県	278	298
富山県	89	88
石川県	132	179
福井県	72	92
山梨県	88	118
長野県	196	213
岐阜県	199	183
静岡県	409	448
愛知県	1,048	1,069
三重県	235	221
小計	2,746 (14.16%)	2,909 (12.63%)

表6 関西地域について

地域別	「卵焼き」	「玉子焼き」
滋賀県	96	121
京都府	457	446
大阪府	1,628	2,160
兵庫県	655	938
奈良県	135	136
和歌山県	65	68
小計	3,036 (15.66%)	3,869 (16.79%)

表7 中国・四国地域について

地域別	「卵焼き」	「玉子焼き」
鳥取県	74	63
島根県	55	59
岡山県	185	274
広島県	291	326
山口県	134	115
徳島県	68	72
香川県	109	118
愛媛県	210	254
高知県	98	94
小計	1,224 (6.31%)	1,357 (5.97%)

表8 九州・沖縄地域について

地域別	「卵焼き」	「玉子焼き」
福岡県	796	1,043
佐賀県	62	65
長崎県	150	128
熊本県	139	168
大分県	94	83
宮崎県	117	70
鹿児島県	133	104
沖縄県	226	238
小計	1,717 (8.86%)	1,899 (8.24%)

なので、本稿も検証してみた。表7からわかるように、食べログで、「高知県」を指定したところ、「卵焼き」が98件検出、「玉子焼き」が94件検出され、さほどの差が見られない。本稿も笹原（2008）の指摘を確認することができなかった。

3.4 複合語や名詞句について

「卵焼き」「玉子焼き」はどのような複合語や名詞句に使われているのか、ということも両者の使い分けを明らかにする手がかりになるのではないかと考え、調査してみた。この点については、塩田・山下（2013）においては、触れられていない。

まず、Yahoo! (<http://www.yahoo.co.jp>)⁷⁾を使い、「卵焼き」-「玉子焼き」と「玉子焼き」-「卵焼き」をそれぞれキーワードにして検索した。「卵焼き」-「玉子焼き」の検索件数は6,160,000件、「玉子焼き」-「卵焼き」の検索件数は1,660,000件である。次に、それぞれ先頭100件を調査し、複合語や名詞句を抜き出す。次に抜き出した複合語や名詞句を用いて、それぞれを「卵焼き」と「玉子焼き」に置き換えて検索した。検索件数が100以下の複合語と名詞句は省略する。調査結果をまとめると、表9ようになる。

表9 複合語と名詞句について

複合語・名詞句	卵焼き	玉子焼き
*居酒屋	1,510	30
*器	344,000	323,000
*職人	1,130	5,030
*専門店	2,400	9,290
*レシピ	3,190	5,670
明石*	514	4,850
手作り*	5,690	7,790
ふわふわ*	22,100	12,700
ふんわり*	8,240	11,100
ふわふわの*	18,000	14,300
ふんわりの*	27	8,240
ニラの*	50,800	99
ねぎの*	13,800	82
ほうれん草の*	20,600	71

複合語と名詞句についても、きれいな傾向は見られない。「*専門店」は、「玉子焼き」のほうが多いが、「*居酒屋」になると、「卵焼き」のほうが多くなる。「ふわふわ」では、

「卵焼き」のほうが多いが、「ふんわり」になると、「玉子焼き」のほうが多くなる。

一方、「*職人」「明石*」に関しては、「玉子焼き」のほうが多く、それぞれ約5倍と10倍の差が出ている。それに対し、「たまご焼き」がほかの食材と一緒に使われる料理名では「卵焼き」のほうがよく使われる。例えば、「ニラの卵焼き」「ねぎの卵焼き」「ほうれん草の卵焼き」など、「卵焼き」のほうが圧倒的に多い。「玉子焼き」のほうがただ数十例しか出ていない。なぜ、ほかの食材と一緒に使われる料理名では「卵焼き」のほうがよく使われるのだろうか、興味深い課題である。

3.5 調査結果のまとめ

WWWをコーパスとして利用し、「卵焼き」「玉子焼き」の漢字表記の使用実態について調査した。調査結果をまとめると、以下の4点になる。

まず、全体として、Yahoo!では、[卵焼き派]が多いが、食べログでは、[玉子焼き派]がやや多い。

次に、男女差について、「卵焼き」はやや女性的で、「玉子焼き」はやや男性的であり、塩田・山下(2013)のアンケート調査と同様の結果となった。

それから、地域差について、関東地域は、[玉子焼き派]が相対的に多いが、中部地域は、[卵焼き派]が相対的に多い。塩田・山下(2013)の「[玉子焼き派]が関西にやや多い」と異なる結果である。ただし、「高知では「玉子」は使われていない」ということを確認することができなかったことに関しては、本稿は、塩田・山下(2013)と同じである。

最後に、「ほうれん草の卵焼き」「ニラの卵焼き」などのように、ほかの食材と一緒に使う料理名には、「卵焼き」のほうが多く使われている。

4. 「から揚げ」と「しょう油」について

漢字表記のゆれは、「たまご焼き」だけでなく、「唐揚げ・空揚げ」や「醤油・正油」においても生じる。塩田・山下(2013)は、この2組についてもアンケート調査をした。本稿も、この2組について、ウェブで検証してみる。なお、検索方法は、3節の「たまご焼き」と同じである。

4.1 「から揚げ」について

塩田・山下(2013)の調査結果は、まず、全体として、「唐揚(げ)」と書く(「空揚(げ)」は正しくない)という回答が多数である。また、若い年代ほど「唐揚げ」が多いという傾向が見られる(同:47-48)。男女差と地域差については、触れられていない。

本稿のウェブでの調査結果を以下に述べる。

まず、全体として、「唐揚げ」の検索件数が多い。「唐揚げ」-「空揚げ」の検索件数は

11,600,000 件、「空揚げ」-「唐揚げ」の検索件数は 96,800 件である⁸⁾。「唐揚げ」の用例数は、「空揚げ」よりはるかに多く、予想通りの結果である。

次に、男女差については、3.2と同じ手法をとる⁹⁾。相互平均法で計算した結果、「唐揚げ」(2.36)、「空揚げ」(2.43)となる。僅差であるが、「唐揚げ」は相対的に女性的で、つまり、女性がやや多く使う。それに対し、「空揚げ」は相対的に男性的で、男性がやや多く使う。

さらに、地域差については、3.3と同様に、食べログで調査した¹⁰⁾。調査結果をまとめると、表10のようになる。

表10 「から揚げ」に関する地域差の調査結果¹¹⁾

	唐揚げ		空揚げ	
	用例数	比率	用例数	比率
北海道	3,690	3.39%	33	3.25%
東北地域	4,922	4.52%	33	3.25%
関東地域	41,363	38.01%	394	38.86%
中部地域	16,916	15.54%	130	12.82%
関西地域	21,937	20.16%	206	20.32%
中国・四国地域	8,850	8.13%	137	13.51%
九州地域	9,822	9.02%	68	6.71%
沖縄	1,332	1.22%	13	1.28%
合計	108,832	100%	1,014	100%

表10からわかるように、顕著な傾向は見られない。中部地域と九州地域は、「唐揚げ派」が多く、その差は2.72%と2.31%である。それに対し、中国・四国地域は、「空揚げ派」が多く、差は5.38%である。

複合語と名詞句については、調査した結果、どの複合語も、どの名詞句も、「唐揚げ」が用いられることが、「空揚げ」よりはるかに多く、特に傾向は見られない。

4.2 「しょう油」について

塩田・山下(2013)の調査結果は、まず、全体として、「醤油」¹²⁾と書く(「正油」は正しくない)という回答が過半数を占めた。また、男女差について、女性が「正油」という表記をよく用いる傾向が見られた。それから、地域差については、「醤油」は西日本で、「正油」は東日本で特に多い表記であることがわかった。「正油」がよく使われるという傾向は、北海道では特に顕著である(同:50)。なお、年齢差については、触れ

られていない。

本稿のウェブでの調査結果を以下に述べる。

まず、全体として、「醤油」の検索件数のほうが多い。「醤油」-「正油」の検索件数は2,330,000件、「正油」-「醤油」の検索件数は133,000件である¹³⁾。「醤油」の用例数は、「正油」よりはるかに多い。

次に、男女差については、3.2と同じ手法をとる¹⁴⁾。相互平均法で計算した結果、「醤油」(2.41)、「正油」(2.57)となる。僅差であるが、「醤油」は相対的に女性的で、つまり、女性がやや多く使う。それに対し、「正油」は相対的に男性的で、男性がやや多く使う。これは、塩田・山下(2013)の調査結果と異なる。

それから、地域差については、3.3と同様に、食べログで調査した¹⁵⁾。調査結果をまとめると、表11のようになる。

表11 「しょう油」に関する地域差の調査結果

	醤油		正油	
	用例数	比率	用例数	比率
北海道	9,365	5.43%	1,398	27.61%
東北地域	11,015	6.39%	365	7.21%
関東地域	72,214	41.89%	2,319	45.79%
小計(東日本)	92,594	53.71%	4,082	80.61%
中部地域	25,731	14.93%	459	9.06%
関西地域	28,432	16.49%	248	4.90%
中国・四国地域	11,856	6.88%	87	1.72%
九州地域	12,266	7.12%	157	3.10%
沖縄	1,505	0.87%	31	0.61%
小計(西日本) ¹⁶⁾	54,059	31.36%	523	10.33%
合計	172,384	100%	5,064	100%

西日本では、「醤油」がよく使われ、合算31.36%になり、「正油」の10.33%より、約21%多い。東日本では、「正油」がよく使われ、合算80.61%になり、「醤油」の53.71%との差が大きい。特に、北海道では、「正油」が使われる傾向が顕著であり、「正油」が27.61%、「醤油」が5.43%と、約22%の差がある。まさに、塩田・山下(2013)と同じ結果が観察される。

複合語と名詞句については、「から揚げ」と同じように、調査した結果、どの複合語も、どの名詞句も、「醤油」が用いられることが、「正油」よりはるかに多く、特に傾向は見

られなかった。

5. 塩田・山下（2013）の調査結果との比較

本稿も、塩田・山下（2013）も、「たまご焼き」「から揚げ」「しょう油」を例に、漢字表記のゆれについて調査したものである。ただし、調査方法は異なる。塩田・山下（2013）はアンケート調査であり、本稿は、ウェブ検索による調査である。両者の調査結果は、どこが同じで、どこが違うか、まとめると、表 12 と表 13 のようになる。

表 12 塩田・山下（2013）の調査結果

	たまご焼き	から揚げ	しょう油
NHK 現行規定	卵焼き	①から揚げ ②空揚げ（「唐揚げとも」）	しょう油（漢字表記は不可）
全体	「玉子焼き」が多い	「唐揚げ」が多い	「醤油」が多い
男女差	女性：「卵焼き」が相対的に多い	（触れていない）	女性：「正油」が相対的に多い
地域差	関西：「玉子焼き」がやや多い	（触れていない）	「醤油」：西日本 「正油」：東日本、特に北海道
年齢差	特定の傾向がない	若い年代：「唐揚げ」が多い	（触れていない）

表 13 本稿の調査結果

	たまご焼き	から揚げ	しょう油
全体	「卵焼き」が多い	「唐揚げ」が多い	「醤油」が多い
男女差	女性：「卵焼き」が相対的に多い	女性：「唐揚げ」が相対的に多い	女性：「醤油」が相対的に多い
地域差	関東：「卵焼き」が相対的に多い 中部：「玉子焼き」が相対的に多い	中部・九州：「唐揚げ」が相対的に多い 中国・四国：「空揚げ」が相対的に多い	「醤油」：西日本 「正油」：東日本、特に北海道
年齢差	ウェブ検索による分析は有効ではないため、未調査		
複合語や 名詞句	ほかの食材と一緒に使う料理名には、「卵焼き」が多い	特定の傾向が見出せない	

塗りつぶしで示した部分は、両稿の結論が同じ部分である。「たまご焼き」については、男女差の調査結果は一致するが、全体、および地域差の調査結果では異なる部分がある。「から揚げ」については、塩田・山下（2013）では、男女差と地域差に触れておらず、

おそらく傾向が見られなかったのだろうが、本稿では、男女差と地域差で、一定の調査結果が出た。一方、本稿では、年齢差について、ウェブ検索による調査では考察できなかったが、塩田・山下（2013）では、年齢差について使い分けの傾向が示されている。「しょう油」については、男女差では、両稿は異なる結果になるが、全体と地域差に関しては、一致する結果が見られた。

6. おわりに

本稿は、「卵焼き」と「玉子焼き」を中心に、「唐揚げ・空揚げ」「醤油・正油」を加え、漢字表記のゆれについて、WWWをコーパスとして利用し、使用実態を検証した。その結果、塩田・山下（2013）のアンケート調査の結果と一致するところもあれば、異なる点も見られた。

WWWをコーパスとして利用するウェブ検索は、不安定などの不利な要素があるが、アンケート調査では調べることができない調査項目も検索できる。適用するテーマもほかにあると考えられる。さらに、「国語研日本語ウェブコーパス」とその検索系「梵天」の試験公開が行われることになっており、ウェブ検索による日本語研究はますます期待できるだろう。

今後の課題として、「卵焼き・玉子焼き」のように、なぜ2種の漢字表記が生まれたのか、1種の漢字表記で十分なのに、2種の表記が生まれる必要はどこにあるのかについて考えていきたい。例えば、日本語では、「とうふ」について、「豆腐」と「豆富」の2種の漢字表記が見られる。「くさる」という縁起が悪い意味が連想される「腐」という字を避け、「豆富」という表記を使うようになったのではないかと考えられる¹⁷⁾。しかし、「しょう油」については、事情もまた違う。塩田（2012）によると、「醬」という字は、「常用漢字表」に入っておらず、難しい字であるため、「醬」のかわりに、「正」を用いた「正油」という簡略な表記が一般に使われている。2種の漢字表記が生まれる理由が異なるのは興味深い現象である。

付記

本稿は平成27年度学習院大学大学院「言語学特殊研究—言語調査の方法論—」という授業の期末課題を加筆修正したものである。授業ならびに本稿の作成にあたり、担当教員である日本大学文理学部の荻野綱男教授にご教示いただいた。記して感謝申し上げます。言うまでもなく、本稿の責はすべて筆者に帰する。

注

- 1) 閲覧日：2016年1月29日。
- 2) Google (<https://www.google.co.jp>) と Yahoo! は、「検索面で連携している検索エン

ジンであるが、実際、ほぼ同様の結果を返してくる」(荻野 2014: 20) ため、本文では Yahoo! の検索結果を示した。実際に、Google も使い、同じ方法で検索した結果、「卵焼き」-「玉子焼き」の検索件数は 6,170,000 件、「玉子焼き」-「卵焼き」の検索件数は 1,660,000 件である。Yahoo! Japan とさほど変わらない結果になっている。なお、閲覧日は、Yahoo! と同様、2016 年 1 月 29 日である。

- 3) 閲覧日：2016 年 10 月 16 日。
- 4) 閲覧日：2016 年 1 月 29 日。
- 5) この比率は小計の数字割る「卵焼き」の検索件数 19,389 で得た数字である。以下も同様。
- 6) この比率は小計の数字割る「玉子焼き」の検索件数 23,039 で得た数字である。以下も同様。
- 7) 閲覧日：2016 年 1 月 29 日。
- 8) 閲覧日：2016 年 10 月 8 日。
- 9) 閲覧日：2016 年 10 月 16 日。
- 10) 閲覧日：2016 年 10 月 8 日。
- 11) 各地域はどの県を含むか、3.3 の表 3～表 8 を参照されたい。
- 12) 本稿では、「しょう油」の「しょう」を「醬」という字を使うが、塩田・山下 (2013) のアンケートでは、「醬」という字を使ったため、塩田・山下 (2013) を引用するときに、「醤油」で、「醬」という字を使う。
- 13) 閲覧日：2016 年 10 月 8 日。
- 14) 閲覧日：2016 年 10 月 16 日。
- 15) 閲覧日：2016 年 10 月 8 日。
- 16) 本稿の「西日本」は、「中部地域」を含まず、「関西地域、中国・四国地域、九州地域、沖縄」を指す。なお、塩田・山下 (2013) でいう「西日本」は、「九州沖縄・四国・中国・関西・北陸・東海」を指し、「北陸・東海」は、本稿の「中部地域」に含まれる。よって、本稿の「西日本」と塩田・山下 (2013) の「西日本」は完全に一致していない。「東日本」も同様に、塩田・山下 (2013) では、「甲信越」を「東日本」に入れたが、本稿では、「東日本」ではなく、「中部地域」にいれ、完全に一致していない。
- 17) 笹乃雪ウェブサイト (<http://www.sasanoyuki.com/iware/index.html>)、2016 年 10 月 16 日閲覧。

参考文献

- NHK 放送文化研究所編 (2011) 『NHK 漢字表記辞典』NHK 出版
朝日新聞社用語幹事編 (2010) 『朝日新聞の用語の手引』朝日新聞出版

荻野綱男（2014）『ウェブ検索による日本語研究』朝倉書店

笹原宏之（2008）『訓読みのはなし』光文社

笹原宏之（2010）『当て字・当て読み・漢字表現辞典』三省堂

塩田雄大（2007）「卵焼き？ 玉子焼き？」

[<http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/109.html>]

塩田雄大（2008）「「たまご」といえば、「卵」それとも「玉子」？」『クラリス』vol.4
秋号. 朝日新聞社

塩田雄大（2012）「「しょうゆ」？「醤油」？「正油」？」

[<http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/154.html>]

塩田雄大・山下洋子（2013）「“卵焼き”より“玉子焼き”—日本語のゆれに関する調
査（2013年3月）から①—」『放送研究と調査』63-09. NHK放送文化研究所

時事通信社編（2010）『最新用字用語ブック [第6版]』時事通信出版局

新潮社編（2007）『新潮日本語漢字辞典』新潮社

日本経済新聞社編（2011）『NIKKEI 用語の手引 2011年版』日本経済新聞

文化庁編（1981）「「卵」と「玉子」の使い分け」『言葉に関する問答集7』大蔵省印
刷局

毎日新聞社編（2013）『毎日新聞 用語集』毎日新聞社

丸山岳彦（2011）「コーパス日本語学」『はじめて学ぶ日本語学』ミネルヴァ書房

（ちょう・めい 博士後期課程）